

TAKE FREE

YORII ARIKI -WALK AND LOOK-
あ

LOOK

A-LOOK YORII

№002

寄居を見て、歩く まちなか情報紙

あっLOOKは、株式会社まちづくり寄居が発行するまちなか情報紙です。寄居町のさまざまな情報を皆さんにお届けします。寄居を歩き、町を見て、皆さんのお気に入りを見つけてください。

CONTENTS

- P2 風布・金尾を歩く。 P6 寄居を食す。Vol.2
- P3 みかんの地へ。 P7 まちづくりプレーヤー
- P4 寄居秋色
紅葉の名所を訪れる



寄居の秋を歩く。

ONE DAY TRIP

秋を満喫欲張りコース!

レトロな駅舎からスタート!

はぐれ 波久礼駅



寄居町を代表する観光地である風布・金尾地区。1年を通して楽しめる自然が豊かなエリアです。昭和レトロな駅舎が印象的な秩父鉄道の「波久礼駅」は、このエリアの玄関口として、来訪者を出迎えてくれます。

徒歩
15分

自然味あふれる散策

風のみち



風布・金尾地区を散策するには、「風のみち歩道」がおすすめです。山に育まれた澄んだ空気は、自然と深呼吸してしまうほど、訪れた方に安らぎと癒しを与えてくれます。遊歩道沿いには、風布川が流れ、運が良ければ溪流魚たちと出会うことも。自然を堪能できる散策をぜひお楽しみください。

徒歩
40分

風布観光の拠点

日本の里 風布館

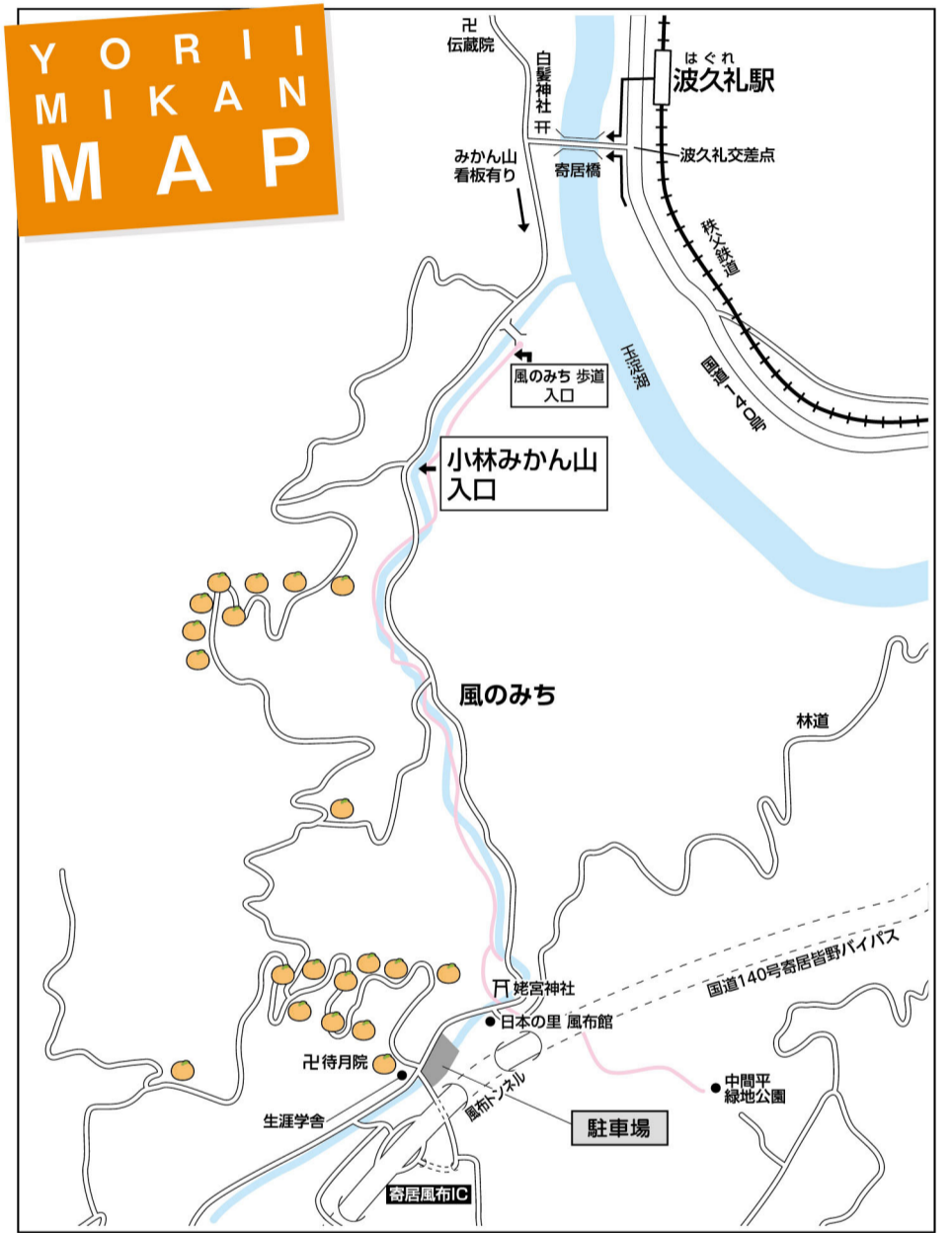


訪れた方を温かく迎える「日本の里 風布館」。自家製の手打ちうどんや寄居町の名水「日本水」を使ったコーヒーを味わえるなど、観光に訪れた方の立ち寄りスポットになっています。また、別館には、無人の駄菓子屋さんがあり、子どもから大人まで、楽しめるスポットになっています。観光案内も行っていきますので、おすすめのスポットを訪ねてみてはいかがでしょうか。



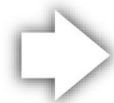
風布・金尾を歩く。

寄居町には、自然や歴史、アウトドアのアクティビティなどさまざまな見どころがあります。その中でも、町の観光地を代表する風布・金尾エリアの魅力をご紹介します。このエリアは、1年を通して観光客が訪れるスポットです。中でも、秋の行楽シーズンには多くの方が訪れ、賑やかになります。お目当ては、町の特産品である「みかん」。都市部からのアクセスがよく、気軽に「ハイキング」と「みかん狩り」を楽しめるコースは特に人気で、多くの方がリピーターとして毎年訪れるほど、人気のエリアとなっています。ぜひ一度訪れていただき、「寄居の秋」を堪能してください!



絶景で楽しむ秋の味覚

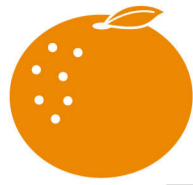
みかん園



徒歩
15分
~40分



寄居町の特産品「みかん」の産地として、風布地区と金尾の小林地区は、小さな盆地ながらも約20軒のみかん園がお客さんを出迎えます。栽培の歴史はなんと400年以上と言われており、長らくみかん栽培の北限として知られていました。最盛期には都市部からの観光バスが何台も出入りするなど、大変人気があり、風布・金尾観光には外せない目玉のスポットとなっています。



みかんの地へ。

寄居町の風布地区、金尾の小林地区のみかん栽培の歴史は古く、天正年間(1573年～1592年)から400年以上もの歴史があります。小田原から柑子みかんを移植したことが始まりと言われており、今日まで多くの方に親しまれてきました。この地区では、20軒ほどのみかん園が栽培を行っており、みかん狩りのシーズンには、多くの来園者で賑わいます。甘酸っぱく、味わい深いみかんはもちろん、みかん狩りを楽しみながら眺める景色も人気があり、おすすめです。



みかんはもちろん、園から望む眺めも最高です。みかんを頬張りながら景色も楽しめる欲張りスポット。



たくさんのみかんから、自分のお気に入りみかんを見つけるのも楽しみのひとつ。みかんを口に含みながら「次はどのみかんにしようかな」と、園内を回ります。みかんの色や形、陽当たりなど、思い思いに探してみてください。



爽やかな秋晴れがよく似合うみかん。例年10月下旬にオープンし、多くの来園者で賑わいます。



園内は、たくさんのみかんの木に囲まれ、みかんのトンネルができます。傾斜の緩やかな園もあるので、どなたでも楽しめます。



ジュースやバウムクーヘンなどみかんの加工品も人気です。「里の駅 アグリ館」などで購入できます。寄居町のお土産として好評のみかんジュースは、寄居町のふるさと納税返礼品としても人気があり、多くのファンを魅了しています。ぜひご賞味ください。

みかん狩りに関するお問い合わせ

寄居町観光協会	048-581-3012
寄居町商工観光課	048-581-2121
風布みかん山	048-581-4977
小林みかん山	048-581-5334

みかんジュース、みかんバウムクーヘンに関するお問い合わせ

里の駅 アグリ館
寄居町大字折原1810-2
☎048-577-3743

寄居町の秋の風物詩「みかん」。
風布地区と金尾の小林地区で栽培される寄居のみかんは、四方を山に囲まれ、低地よりも高地の方が暖かいという逆転現象を利用した、盆地特有の地形ならではの栽培を行っている。みかん栽培の北限の地と言われていました。生産者さんが愛情と手間をかけて作ったみかんは、甘酸っぱく、みかんそのものの味が濃いと言われ、毎年10月下旬から始まるみかん狩りのシーズンには、地元の方だけではなく、県外からも多くの方が訪れます。1シーズンの来園者数は、地区全体で約4万人と言われ、多くのファンがいることがわかります。みかん園へは、旧風布分校・生涯学舎の北側の坂道を登っていくとたどり着きます。南向きの見晴らしのいいみかん園では、たくさんの方の陽を浴びて色づいたみかんが出迎えてくれます。みかんを一口頬張ると、爽やかな酸味と甘みが口いっぱいに広がります。自分で採った「秋の味覚」は格別です。みかん園から見渡す紅葉に色づく山々の景色もおすすめ。ハイキングとみかんと紅葉を一度に楽しめる秋の寄居を満喫できるスポットです。体に染み渡るビタミンCと秋晴れの絶景でリフレッシュできること間違いなし！お客さんの多くがリピーターというのも納得の寄居の自慢の観光スポットです。ぜひ一度訪れてみてください。

寄居秋色

紅葉の名所を訪れる



寄居町の秋の見どころとして、注目されている「紅葉スポット」。寄居と言えば川遊びやハイキングなど、アクティブに自然を満喫できるスポットに人気が集まっています。散策が楽しめる紅葉スポットにも注目が集まっています。中でも「雀宮公園」と「風布地区」の紅葉は人気があり、写真を撮る方や家族で散歩をする方、ベンチで本を読む方など、多くの方が訪れ、思い思いに紅葉を楽しんでいます。例年11月下旬頃から見ごろとなる紅葉ですが、スポットによって見ごろとなる時期が異なるため、紅葉シーズンを長く楽しめるのも寄居町の紅葉ならでは。今回は、そんな寄居町のおすすめの紅葉スポットを紹介します。

雀宮公園の紅葉



すずめのみやこうえん 雀宮公園

歌舞伎の名優に愛された土地

七代目松本幸四郎の別邸跡地が公園として整備され、町民の憩いの場となっている雀宮公園。寄居駅、玉淀駅から徒歩10分程の立地とあって、まち歩きを楽しむ方にも人気の公園です。四季折々の顔がある公園で、一年を通して見どころがあり、最近では紅葉の隠れた名所として注目を集めています。



あずまや 四阿からの風景

趣のある園内の風景を眺めると、ゆったりとした時間が流れます。七代目松本幸四郎に愛された当時に思いを馳せると、より味わい深い風景に映ります。



園内全体が色づいた様子

落葉したモミジやカエデは、地面も染めて園内を包み込みます。町内外問わず多くの方が訪れ、散策などを楽しむ姿があります。



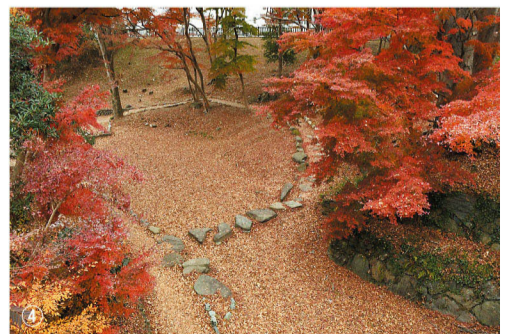
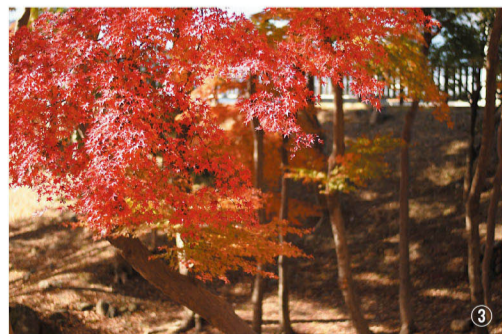
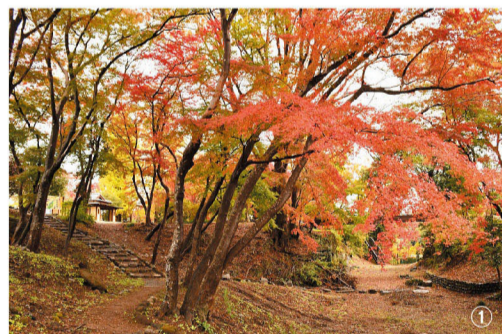
黄色く染まる園内

銀杏の紅葉もオススメです。モミジ、カエデより一足先に、10月上旬から見ごろを迎えます。肌寒くなる季節にあたたかみを感じさせてくれます。



高く張り出した木々

覆いかぶさるように張り出した木々の紅葉は迫力があります。秋空の青と紅葉の赤が織りなすコントラストについて見入ってしまいます。



- ①四阿に続く石段に沿って木々が立ち並びます。この石段は松本幸四郎の別邸があった当時の名残です。
- ②南門の先は、玉淀河原まで続く遊歩道になります。散策をしながら、紅葉と荒川の景色を楽しめるので、訪れた際には、ぜひ歩いて欲しいコースです。遠足で訪れる子どもや遠方からハイキングに来る方など、多くの方に親しまれています。
- ③園内は高低差があり、紅葉を上からも楽しめます。
- ④紅葉は、落葉してから風情があります。シーズン終盤になると、園内には真っ赤な絨毯が広がります。





日本の里の紅葉

やまと さと 日本の里

寄居町を代表する観光スポット

風布地区と言えば、「みかん」という印象をお持ちの方が多くと思いますが、このエリアの魅力はみかんだけではありません。みかん狩りが最盛期となるこの時季、日本の里やその周辺では、美しい紅葉が見ごろになります。このスポットには、紅葉と一緒に水車や風布川など、里山の情緒をしみじみと感じられる見どころがあります。透き通った溪流と、紅葉が創り出す風景は必見です。訪れた際には、ぜひ「風布館」にもお立ち寄りください。気さくな店主と手打ちうどんが温かく出迎えてくれます。



風布川と紅葉

日本名水百選に選ばれている「日本水」^{やまとみず}を源流とする風布川。澄んだ流れと紅葉の鮮やかさ。秋の風情を感じる見事な景観です。



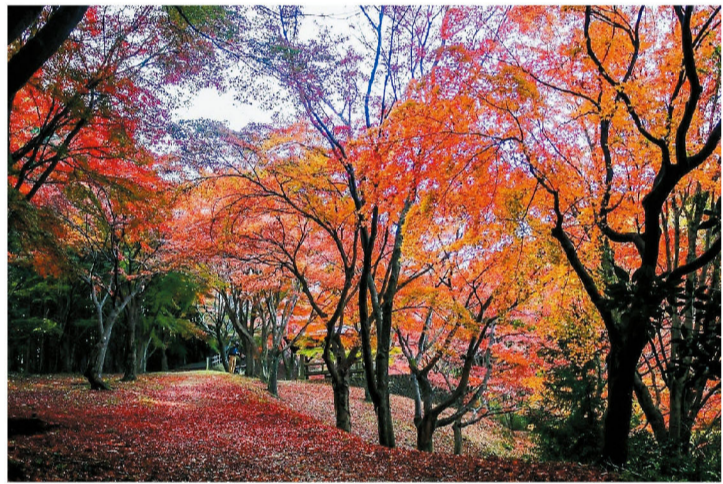
さいこくぼし 彩谷橋

本紙の表紙に登場する橋。木造の橋と紅葉が調和した日本の里を象徴する風景です。ぜひ立ち寄ってほしいスポットです。

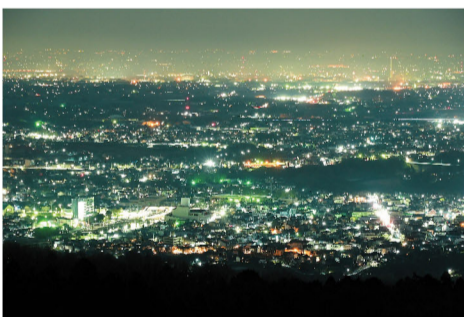
ちゅうげんだいらりよくちこうえん 中間平緑地公園

寄居町の絶景スポット

中間平緑地公園の紅葉は、11月初旬から見ごろになります。広い園内に立ち並ぶ木々が一斉に色づく様は圧巻です。風布地区からもほど近く、合わせて訪れて欲しいスポットです。開放的な園内で、爽やかな秋の風を感じながら散策を楽しんでみてはいかがでしょうか。また、中間平と言えば、やはりその眺望のすばらしさ。紅葉越しに眺める山々の風景は、しばらく眺めていたくなるような絶景です。夜になると展望デッキからの夜景が楽しめることで人気の中間平ですが、昼間だからこそ味わえる絶景もおすすめです。

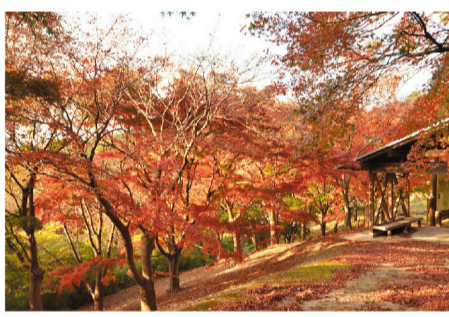


中間平緑地公園の紅葉



展望デッキからの夜景

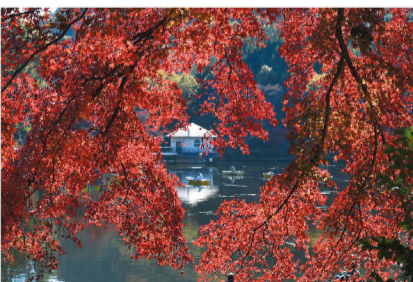
寄居町を中心とした大パノラマが広がります。天候などの条件に恵まれると、東京スカイツリーも見ることができるほどの眺望のよさ。展望デッキのすぐ近くには、駐車場とトイレがある手軽さも魅力です。



夕日が差し込む園内

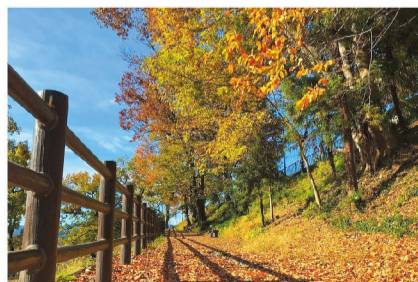
夕日に染まる紅葉は、より鮮やかさを増して園内を華やかに彩ります。たくさんの木々からなる紅葉は見ごたえがあり、散策におすすめです。

その他おすすめスポット



円良田湖

ヘラブナ釣りやワカサギ釣りを楽しむお客さんが訪れるスポット。紅葉もおすすめです。



玉淀河原周辺

クスギやコナラなど、黄色や茶色に色づく紅葉が見られます。雀宮公園と合わせて訪れてみてください。



寺・神社

町内には、多くの寺社があり、参拝と紅葉を楽しむ寺社があります。写真は末野地区の少林寺です。



玉淀湖

玉淀ダムの上流部になる玉淀湖では、紅葉に囲まれた湖面でカヌーやサップを楽しめます。



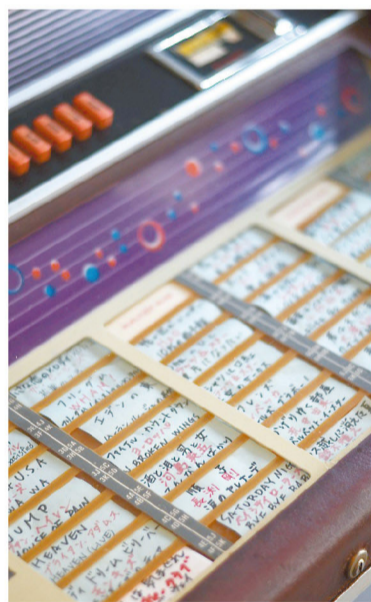
寄居を食す。vol.2

「寄居町ならではの」の魅力が詰まった飲食店を紹介します。町の飲食店の魅力を知っていただき、町を楽しむための参考になればと思います。これをきっかけに町を訪れていただき、散歩と食べ歩きを楽しんでみてはいかがでしょうか。みなさんの来町をお待ちしています。

1 横浜屋 昭和レトロへの入口

寄居駅からほど近く、昭和レトロな喫茶「横浜屋」さん。店内に足を踏み入ると、タイムスリップしたかのような雰囲気に包まれます。

昭和40年代から愛されるお店は、当時から通う常連さんや地元のお客さんだけでなく、評判を聞きつけて遠方から訪れるお客さんも。飾らない、誰でも気軽に立ち寄れるお店の雰囲気には、「寄居町を訪れた方がひと休みする場所になりたい。せっかく訪れてくれた方をおもてなしたい」と話す店主のお客さんへの心遣い



にあふれた温かさを感じます。メニューには、こだわりのコーヒーをはじめとしたドリンクのほか、お食事もおすすめ。ラーメンやナポリタンなどがあり、昭和から愛される味を堪能できます。今回いただいたナポリタンは、甘めのケチャップに太めの麺と具材が絡み、一口目から深い味わいに思わず目をつむってしまうほど。何度も通う常連さんがいるのも納得です。また、夜には、昼間とはまた一味違った魅力があります。食事はもちろん、バーとしての顔もあり、レトロな雰囲気、懐かしのジュークボックスをかけると、思い出にふける長い夜の始まりです。

「横浜屋」さんのレトロが奏でる「非日常」。訪れた方を虜にしてしまうその魅力に浸ってみてはいかがでしょうか。

寄居町寄居1242-2
☎ 048-581-4630
□ 11:00~15:00
17:00~23:00
休 水曜
※ 寄居駅南口
徒歩3分

2 食堂&茶屋 CHILL

家族で楽しむ幸せのランチ

寄居駅南口から西へ徒歩で5分ほど歩くとおしゃれな外観のレストランに出会います。かわいらしいイラストののぼりが出ている「食堂&茶屋CHILL」さん。木材が作りだす雰囲気は、「のんびりくつろ



げるお店にしたい」という思いから名付けられた店名のとおり、落ち着きがあり、なんだかホッとするような居心地があります。2019年のオープン以来、「何を食べても美味しい!」と評判で、地元の方を中心に多くのファンがいます。アットホームな雰囲気のCHILLさんには、食事のメニューが充実しています。「子どもからお年寄りまでどなたにも楽しんでほしい。家族で来店してもらえたら」という店主の思いが込められた、年齢を問わず、家族みんなで食事を楽しめる温かいお店。数あるメニューの中から、今回はイタリアンハンバーグをいただきました。注文から数分後、目の前に現れたハンバーグは、華やかで彩り豊か。特に女性に人気というも納得。沸き立つジューシーな香りに写真を撮る手が急かされます。普段は野菜からいただく私ですが、無意識にハンバーグを口へ運びます。ハンバーグのジューシーな肉汁とトマトソースの柔らかい酸味、チーズのコクが一体となって幸福感に包まれました。美味しさにもボリュームにも満足で、どなたにもオススメできるメニューだと感じました。店主は、このお店を始める以前、都内でうどんカフェを営んでいた経歴があり、うどんもオススメとのこと。イタリアン、和食などさまざまなメニューがあり、次回への楽しみが増えるのも嬉しい。「CHILL」さんで、家族でのんびり幸せのランチをお楽しみください。



寄居町寄居1097-6
☎ 048-501-5515
□ 11:00~17:00
※16:00 ラストオーダー
休 水曜、第2・4火曜
※ 寄居駅南口
徒歩3分

3 か〜む ゆったり楽しむこだわりの逸品

寄居駅南口から徒歩2分ほど、ロータリーから西に続く道を進むと、「武州豚」「やきとり弁当」ののぼりが目を引く「居酒屋か〜む」さん。英語で、穏やかな、落ち着いた、といった意味を持つ「calm」から名付けられた店名のとおり、居心地のよさがあります。地元のこだわりの食材を使ったメニューなどが自慢で、ランチも営業している人気の居酒屋さん。武州豚は、寄居町で育てられた豚肉で、甘さがありながらもしつこさがなく、今回いただいた「ポークチャップ定食」との相性は抜群! 「チャップ」はケチャップのことで、優しい酸味が豚肉の甘みを引き立てます。食欲をそそる香りと味で白飯が進み、ボリュームもあって大満足。また、寄居町の名物ともなっている「やきとり」も逸品。豚のカシラ肉を使った寄居町ならではのやきとりを弁当にしたもので、丁寧に炭火で焼いたやきとりは、香ばしく柔らかい。お好みで付けられる辛味噌も嬉しい。辛味噌は、深いコクのある辛さで、これがまた堪らない。地元食材を使ったメニューのほか、こだわりの「魚」も評判があります。内陸の寄居で魚!?と思うかもしれませんが、全国各地から取り寄せたり、時には店主自ら海へ調達に



出るほどで、海辺と差がないのでは、と思うくらいの鮮度。旬の魚を最高の状態でいただけることあって人気を集めています。新鮮な魚を、熟成させ、旨味を引き出したメニューなど、職人気質の店主の「技」が光る。魚の仕入れなど、メニューの情報については、お店のFacebookやInstagramでも紹介しているため、来店の際は参考にしてみてはいかがでしょうか。居心地のいい「か〜む」さんで、こだわりの逸品をお楽しみください。

寄居町寄居1222-1
☎ 048-580-0007
□ 11:30~15:00
17:00~23:00
※22:00 ラストオーダー
休 日曜
※ 寄居駅南口
徒歩2分





まちづくりプレイヤー

ひとえにまちづくりと言ってもその方法は多岐に渡ります。寄居町では、さまざまな分野で熱い想いをを持って、地域を盛り上げる活躍をしている方がたくさんいます。今号では、そんな活動をしているお2人をご紹介します。

シンガーソングライター

吉田 光孝さん

mitsu*
YOSHIDA MITSUTAKA

PROFILE

シンガーソングライター、地域音楽コーディネーター、寄居町ふるさとサポーター、brave cat works代表、寄居町生まれ、町内在住。

寄居町をはじめ各地で音楽イベントを企画・開催を行っており、地域の音楽文化を盛り上げようと活動している、知る人ぞ知るシンガーソングライターです。その優しい歌声と感情のこもった歌には、多くの人を引き付ける魅力に溢れています。



ML.TAILS



私たちの生活には音楽が欠かせません。音楽には力があり、聞く人の原動力になる。そんな音楽を通して、地域や人、文化を盛り上げたいと活動しているmitsu*さんに、今回、お話を伺いました。

小さいころ、ゲーム音楽をきっかけに音楽をはじめ、学生時代には、都内のライブハウスに通いつめ、音楽のスキルを磨いたというmitsu*さん。ギターを弾いて歌うだけではなく、作詞・作曲も行っています。「曲を作るときには自分の中にあるものを歌います。まず歌詞が浮かび、書き写しながらメロディーを付けていきます。音楽には人と人とを繋げる力がある。コロナ禍で人間関係が希薄になってしまったが、音楽を通して、再び人との繋がりを生み出すきっかけになりたいです」と笑顔で楽しそうに語るmitsu*さん。

「音楽のイベントを通して、私を知ってもらえることが嬉しいです。私だけでなく、寄居町を知ってもらえたらより嬉しい。『寄居に観光に来たい』『寄居って自然が多くていいよね』とか、例えば、飲食店でイベントをしたら、そのお店の魅力を知ってもらえる。そういうことが音楽をやる上でのやりがいです」。イベントプランナーとしての仕事もされているmitsu*さんは、寄居町の様々な場所でイベントを企画し、人を呼び込んでいます。寄居町にとどまらず、他市町村でも積極的に活動することで、地域を超えた繋がりも作り出しています。また、寄居町ふるさとサポーターとしても、町の魅力をSNSなどで積極的に発信しています。様々な活動



優しい歌声が印象的

動をしているmitsu*さんですが、最終的なゴール地点は、「地域を盛り上げる」に帰着します。

「今後は、3つの軸(シンガーソングライター、地域音楽コーディネーター、寄居町ふるさとサポーター)を生かして、寄居町の音楽文化をもっと盛り上げたいと思っています。寄居駅南口の駅前拠点施設(Yotteco)ができれば、駅からすぐ近くということもあり、ぜひ利用したいです」。

mitsu*さんは、音楽を通して、さまざまな角度から寄居町をPRしてきました。そしてこれからも町を盛り上げるために、音楽に興味がある人に積極的に協力し、人と人を繋ぐ懸け橋となり続けます。社会情勢によって疎遠になりつつある今日に、再び人々の繋がりを再構築するきっかけを生み出そうとするmitsu*さんをこれからも応援していきたいと思います。

寄居町地域おこし協力隊

大田 幸子さん

OTA SACHIKO

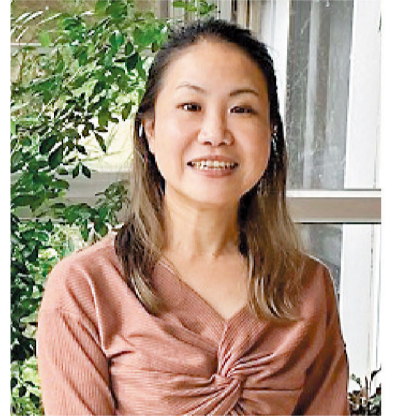
PROFILE

地域おこし協力隊、鹿児島県阿久根市生まれ、町内在住。

2020年から地域おこし協力隊として寄居町に移住し、現在は、空き家・空き店舗活用支援を行っています。寄居×和装プロジェクトでは、寄居町が和装の似合う町として、まち歩き



SA_CHI.75



現在、空き家の増加が、全国的に問題になっており、寄居町も例外ではありません。空き家を活用しようとしても、オーナーの思い入れや様々な事情があることから、容易に解決できる問題ではありません。大田幸子さんは、寄居町地域おこし協力隊として、そんな「空き家活用」をテーマに活動しています。

大田さんは、移住前から取り組みたいと思っていた空き家・空き店舗の活用を寄居町で行っています。「活動としては、空き家を所有している方から相談を受けて、空き家を探している方とのマッチングをしています」。

未利用の物件を所有している人は、どこに連絡したらいいかわからないことも多い。そこで、大田さんが窓口になることで、空き家が必要な方との橋渡しをしています。「この活動は、オーナーのご理解とご協力がないとできません。『この場所を守ってほしい』というオーナーさんの想いと、利用者さんの『この場所を使いたい』という想いが合致しないとできません。そこが難しいところですね」。物件をマッチングさせることは容易なことではありませんが、大田さんは、オーナーと利用者それぞれの話に耳を傾け、想いを大切にしながら活動しています。

また、大田さんは、折原地区に1棟貸し宿の民泊施設「^{きしゆくおんご}帰宿隠坐」をオープンし、



空き家を活用した『帰宿隠坐』

自ら運営しています。「空き家活用のモデルの一つとして、この家をリノベーションし民泊施設として運営しています。多くの方に気軽にご利用いただいています」。帰宿隠坐は貸し切りのため、グループで料理を作っ

振る舞ったり、家族で寛ぐことができると好評です。

現在、自ら手掛ける帰宿隠坐とともに、中心市街地にある物件のリノベーションの計画も進行中。「空き家問題は地域全体の課題として取り組んでいく必要があります。形あるものは、いずれ朽ちるもの。ただ、一度、空き家を駐車場にしてしまうと、新たな活用は難しい。でも、古い建物を何かしらの形で活用すれば、それがチャンスとなる。寄居町がもっと楽しい町になるといいですね」と話してくれた大田さん。空き家を通し、住みやすく、住みたいと思えるまちづくりに取り組んでいる大田さんに、今後も注目です。

今後も町内のまちづくりに携わるプレイヤーについて取り上げます。情報をお持ちの方は、お気軽にまちづくり寄居までお寄せください。



狼信仰が息づく釜山神社では、狛犬ではなく、狼が出迎えます。人の善悪を見定め、悪人を罰すると信仰された狼。秩父地方一帯の山間部では、古くから狼は大口真神として、神そのものとされ、信仰の対象とされてきたそうです。オオカミを漢字で書くと「獸編に良」。かつては、「大いなる神様」から、「大神」と書いたとも言われ、当時から日本に根付く信仰の深さが伺えます。

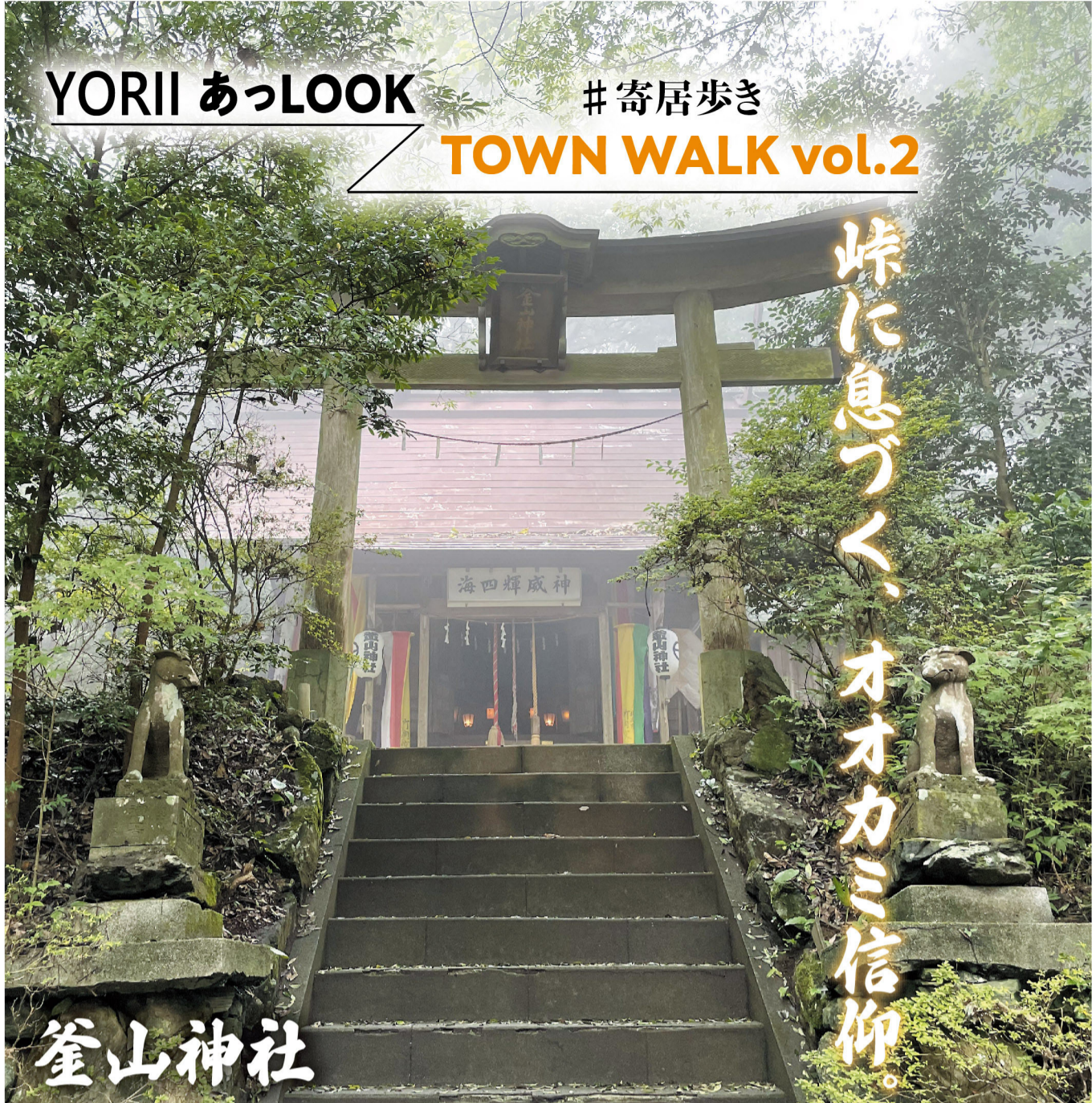


鳥居から拝殿へ続く参道の両側には、杉が参拝者を見下ろすようにそびえています。厳かな雰囲気の中、恐る恐る参道を進んでいく途中には、何体もの狼像が現れます。



この地には、狼信仰だけではなく、日本武尊伝説も残っています。日本武尊がこの神社に立ち寄った際に、山頂にて、神様にお供えするお粥を釜で炊き、その釜を神体岩の上に伏せ、お祈りをしたことから「釜伏山」と名付けられたと言われています。また、この地を源流とし、「日本名水百選」に選ばれている「日本水」は、日本武尊が岩肌に剣をふるい、湧き出た泉から名付けられたと言われるなど、神秘的な逸話が伝えられています。

編集後記
 まちなか情報紙「あっLOOK」第2号は、寄居町の秋の見どころをメインに紹介しました。季節によってさまざまな魅力をもつ寄居町ですが、特に「秋」には、みかんや紅葉など、町を代表する魅力があり、本紙を手にとった方にも、ぜひ訪れていただきたいという想いで発行しました。寄居町をお出かけの候補に加えていただき、訪れた方の思い出のページを飾り、また訪れたいと感じていただけたら何よりです。
 今回の発行にあたり、紙面に登場していただいた方をはじめ、たくさんの方に協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。今後不定期に発行しますので、引き続き皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



釜山神社

秩父山地の一端、釜伏山(標高582m)に鎮座する「釜山神社」。この地を源流とする名水「日本水」の水汲み場から、峠道をさらに2キロメートルほど登ると、深い森に囲まれた社殿にたどり着きます。ここ釜山神社は、息を飲む幻想的で神秘的な雰囲気が漂い、知らず知らずのうちに迷い込んでしまったかのようなファンタジーにも似た、まさに異世界。

長い歴史があると伝えられる釜山神社は、秩父地方一帯に点在する「狼信仰」が残る神社のひとつ。すでに絶滅したとされる「ニホンオオカミ」が神格化した「大口真神」(おおぐちまかみ)を聖獣として崇拝してきた歴史があります。狼は、獣から作物を護るものとされ、また、人の言葉を理解し、人の善悪を見抜くと言われ、悪人を罰するものとしても信仰されたそうです。狼を信仰する神社としては、秩父市の三峯神社が有名で、全国各地から多くの参拝客が訪れますが、その三峯神社に次いで狼像が多く置かれているのが、釜山神社とも言われ、その信仰の深さが伺えます。実際に訪れると、狼信仰が根付く地であるためなのか、幻想的な雰囲気の中にも、まるで狼に善悪を見定められているかのような緊張感が張り詰め、つい、背筋が伸び、姿勢を正してしまいます。無事に参拝を済ませた後には、清く正しくならなくては、と自らを律する気持ちが芽生え、目線が上がったように感じました。と、私なりの感想ではありますが、上手く言葉では言い表せないのも、一度訪れてその雰囲気を感じてみてください。かつては、秩父往還の峠道として多くの人が行き交っていたこの場所。古くから崇められ、人々を見守ってきた狼を訪ねてみてはいかがでしょうか。



奥の宮のさらに奥は、寄居町の標高最高地点(640m)。ここからは、寄居の町が見渡せます。

釜山神社 ABOUT KAMAYAMA SHRINE

釜伏山の頂上に向かう峠道沿いに鎮座する神社。秩父地方一帯に根付く「狼信仰」が残る神社のひとつで、狛犬ではなく、狼像が出迎えます。幻想的で、神秘的な佇まいは必見。
 所在地:寄居町風布1969

